

無痛MRI乳がんドック

— ドゥイブス・サーチ —

無痛MRI乳がんドックは、乳がんを診断する新たな検査方法で、乳房をはさまない・造影剤を使わない新しいMRI検査です。



無痛MRI乳がんドックの3つの特長

痛くない

- マンモグラフィのように、乳房を挟まれることなく検査できますので、痛みがありません。
- 検査着のまま、うつ伏せの状態で検査できますので、乳房を見られることはありません。
- 造影剤を使わずに検査できますので、注射も放射線被ばくもありません。

超高画質

- 乳腺が多いことや乳房の大きさを問わず、高い精度が認められています。
- 浸潤がんの診断能がマンモグラフィの約10倍にもなっています。
- 認定を受けた医療機関でのみ実施できる検査です。

LINEで簡単予約

- 思い立った時に 24時間いつでも予約できます。問診も事前に終わるので、あとは当クリニックで検査を受けるだけです。



ご予約は
このQRコードか
「無痛MRI」を検索



検査料金(消費税込み)



32,400円

LINE予約で

29,160円

LINE予約の方のみ、お見舞金制度が自動付帯され、検査陽性で、その後がんと診断された場合、検査料が全額払い戻しされます。
(適用期間:検査後4ヶ月以内)

- PET-CTがん健診でのオプションの場合

エグゼクティブコース 22,680円

スタンダードコース 25,920円

広島平和クリニック
がんドック先端医療健診センター

〒730-0856 広島県広島市中区河原町1番31号
Tel.082-532-2211 Fax.082-233-7700

予約専用ダイヤル

0120-656-661

予約受付時間 8:30~17:30

近年、乳がんは増加傾向が著しく、生涯で乳がんを患う日本人女性は「11人に1人」と言われ、女性のがんの中では最も罹患率が高いがんになっています。

乳がん検診は早期発見のために大切で、マンモグラフィが推奨されていますが、撮影時の痛みや放射線被ばくの問題に加えて、高濃度乳房の問題も指摘され、学会レベルでも検診方法について色々な検討がなされています。

この度、より身体への負担が少なく、かつ高濃度乳房でも病変の検出能が高い検診方法として、「**造影剤を用いないMRIでの乳がん検診**」を開始することにいたしました。高品質のMRI検査を担保するためには、高性能装置の使用はもとより、検査技術・読影技術の精度管理が欠かせません。当院で運用を開始する「**無痛MRI乳がん検診**」は、造影剤を用いないMRI撮影方法（**ドゥイブス法**）であり、日本で3施設目として精度管理の認定を受けております（使用するMRI装置は、GE社製Discovery 750w、3テスラ）。

Q&A 検査について

Q 本当に痛くありませんか？

A マンモグラフィのように、乳房を圧迫するような痛みはありません。しかし、うつ伏せでの検査になりますので、胸骨部や腹部が押され痛みを感じる方がいらっしゃいます。

Q 検査前に気をつけることはありますか？

A 特にありません。ただし、うつ伏せでの検査になりますので、検査直前の食事は避けたほうがよいでしょう。

Q 来院時の服装はどのようなものでもいいですか？

A 検査着に着替えていただきますので、どのような服装でも大丈夫です。

Q 金属類を外して検査するとありますが、指輪が外れません。検査は可能ですか？

A 検査は可能です。ただし、検査前、問診時にお知らせください。

Q 肩や腰が痛くてうつ伏せになるのが心配です。大丈夫ですか？

A できるだけ、楽な体勢で検査できるように調整いたします。お声掛け下さい。

Q 検査中に動いてしまいそうです。動いたらどうなりますか？

A ひどく動いてしまった場合、画像がぶれて結果に影響がでることがあります。その場合には、もう一度撮影しますので、検査時間が延長します。

Q 結果はすぐに分かるのでしょうか？

A 当日は結果をお伝えできませんが、複数の専門医が判定して約2週間で結果をお届けします。

Q 検査を受けられない人はいますか？

A 金属類を埋め込むような手術（ペースメーカー等）をされている方、妊娠中の方は検査を受けることができません。また、閉所の苦手な方も検査できない場合があります。

Q 豊胸術をしていますが、検査は可能ですか？

A 検査は可能です。問診票にどのような施術か詳細をご記入ください。

Q&A 無痛MRI乳がんドックについて

Q どんな腫瘍でも見つけることができるのですか？

A マンモグラフィや超音波検査と同じく、あまりに小さな病変の診断は難しいです。MRIは石灰化の描出能は高くなく、石灰化病変の検出は難しい場合もあります。

Q 今まで、マンモグラフィで検診を続けてきたのですが――？

A 石灰化を指摘されており、経過観察の必要があるとされている場合は、引き続き定期的なマンモグラフィが必要と考えます。無痛MRI乳がん検診を希望される場合は、2つの検査を組み合わせるとよいと思います。

Q この検査を受ければ、マンモグラフィや超音波を受ける必要はないのでしょうか？

A 浸潤癌の発見に関してはマンモグラフィや超音波検査に比べて検出能の高い検査です。ただ、見えているものが違うので、100%とは言えません。特に、小さいものや石灰化は苦手な場合があります。必要に応じて他の検査と組み合わせるのがよいと思います。また、複数の検査を組み合わせることで、より検出能は高くなると考えます。

Q 乳癌のMRI検査には造影剤を使うと聞いたのですが――？

A 検診を目的として、造影剤を使わなくても病変を見つけることができる撮像法です。もし異常が疑われた場合は超音波検査での確認や、造影MRIでの精査が必要となる場合があります。